

令和 4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471001626	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成30年3月1日
法人名	シニアウイル株式会社		
事業所名	シニアウイル おどりば戸塚		
所在地	(〒245 - 0061) 神奈川県横浜市戸塚区汲沢8-31-18-19		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年10月5日	評価結果 市町村受理日	令和4年11月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	http://senior-will.co.jp/odriba.html
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナ禍のなかで認知症が進行しないように外気浴や「今」できるようにお手伝いを等を通して支援している。利用者様に新型コロナウイルスの発生は一人もおらず、感染対策には力を入れている。職員の研修(内部研修、外部研修)も取り組んでおり、介護力向上を行えるようにしている。重
度化になり、何もできない利用者様もいますが、少しでも楽しめるように音楽療法も取り入れたり、花壇の花見などをする外気浴をしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和4年11月9日	評価機関 評価決定日	令和4年11月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇「お客様本位」で取り組んでいる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何かやらせて」と手伝う意欲のある利用者には、洗濯物たたみやお盆拭きを任せている。頼むとお米研ぎをしてくれる利用者がある。家族からの情報をヒントに、塗り絵を勧めたところ、楽しんで続けている利用者もいる。 ・家族から通院の付き添いを頼まれたとき、事業所職員が支援している。 <p>◇コロナ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すりやドアノブのアルコール消毒を1日2回行い、清潔を保っている。 ・食事介助やオムツ交換の際に、職員はガウンとフェイスシールドを着けている。職員がひとつのケアにかかった時間も記録している。 <p>◇花壇や畑で季節感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所敷地内の花壇や畑には、季節の花が咲き、トマトやメロン、柿などが実を付けている。コロナ禍で外出が制限されているが、利用者は外気浴を兼ねて花や野菜を見たり、収穫を手伝って、季節感を味わっている。 <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇職員の意見や思いを「気づきシート」に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員は意見や思いを、会議などで話す以外に「気づきシート」に記録している。1つの意見に別の職員がコメントし、解決策まで記録している。タイムテーブル「支援表」の使い勝手が、職員の意見を取り入れ、良くなった。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	シニアウイルおどりは戸塚
ユニット名	ばらの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をホーム内に掲示し、申し送りの際に理念の共有を口頭で行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営理念を反映したマナー集「人を活かす」を全職員に配付し、会議の度に読み合わせて理念を共有している。 ・理念は少し長いので、普段は簡潔に「お客様本位」を徹底するようにしている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。自治会のイベントがあれば参加するようにしているが、今は自治会のイベントもない。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前は、自治会の餅つきや運動会に参加していた。また事業所の認知症カフェには毎月7、8名の参加があり、クリスマス会や夏祭りには保育園児が来ていた。 ・自治会のホームページ(HP)には事業所のHPがリンクされている。 	・コロナ終息後に認知症カフェの再開を念頭に置き、その準備を進めることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催していたが、新型コロナウイルスの影響で中止している。落ち着いたら再開を予定している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回開催している。が書面での開催で意見を聞いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を年6回開催し、自治会長、民生委員、家族、地域包括支援センター職員が参加している。 ・参加者からは、コロナ感染症対策へのねざらいや認知症カフェの再開の要望、食事レクや外出レクの要望が寄せられている。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の生活保護担当と連絡を取り合っている。高齢支援課の方と認知症カフェについて話すこともある。	<ul style="list-style-type: none"> ・戸塚区に運営推進会議議事録を郵送し、横浜市に事故報告書を提出している。 ・区の生活保護課に生活保護利用者の購入品について相談している。 ・区から送られきた感染症対策のビデオを内部研修に使っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を3か月に一回行い研修も行っている。身体拘束しない為にも言葉使いを中心に支援方法を検討している。	・身体拘束委員会を年4回行い、議事録を回覧している。 ・研修を年1、2回行い、アンケート形式のテストも実施している。 ・管理者は、経験上小さな言葉遣いの間違いが虐待に繋がるのを見てきたので、職員のスピーチロックなどの言葉遣いに常に注意している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止と並行して取り組んでいる。年に1回はアンケートを取り、それをもとに話し合いを行っている。	・年1回、県の「自己点検シート」を使って職員の虐待に対する認識を確認し、対策を話し合い、虐待防止に取り組んでいる。 ・管理者は職員の話をよく聞くことで、職員がストレスを溜めないよう留意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用している利用者様がいて支援をしている。権利擁護の研修（外部）に行ってもらったりしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行っている。改定時も説明を行い、不安や疑問の解消に努めている。			
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回生活状況を送り、意見、要望を聞いている。玄関に意見箱を設置しており、面会時等にも聞くようにしている、何かあれば話し合いをするように努めている。	・コロナ前は、クリスマス会や夏祭りに合わせて家族会を開催し、毎回10家族ほどの出席があった。 ・おむつ代が高いという家族からの意見があり、無料で入手できるおむつを均等に分けることにし、その旨を全家族に公表している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から声をかけ意見を出せる環境づくりをしている。 年1回は管理者との面談をしている。	・管理者は、職員間で意見を言い合える雰囲気作りに努めている。 ・「気づきシート」に書くことで、職員間の意見交換ができています。 ・タイムテーブル「支援表」に職員の意見を取り入れ、使い勝手が少しずつ良くなってきた。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力に応じた仕事ができるように努めている。昇給や賞与にも個々の評価をして反映している。	・職員は年初に目標を3つ設定し、達成度は点数で評価している。 ・職員には、介護福祉士の資格取得や実践者研修の受講を勧め、休みやすくしたり費用負担などの支援をしている。ケアマネジャーの資格更新費も負担している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナの影響で、外部にはなかなかいけないが、極力行くようにしている。内部研修もしている。	・新人職員には、人材担当者がマナー集やマニュアルを使ったオリエンテーションを行い、ベテラン職員がOJTでケアの技術を指導している。 ・職員には、機会のある度に研修や資格取得を勧めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会等に参加、情報交換をしている。各事業所の悩みや問題解決の事例を話している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ細かく情報収集し、職員間で共有するように努めている。1から2か月は変化や不安がないかを見落とさないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に困っている事、どのような生活をしていたが聞いている。また、コミュニケーションをまめにとり、後から出てくるような要望も解決できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時にアセスメントを取り電話でまめにコミュニケーションをとり聞き取りして対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、台所に一緒に入りお米研ぎや食器拭きなどの役割をしていい関係が築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活状況を毎月伝え、面会や電話でも必要な時に一緒に寄り添える関係を築けるようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会をできるだけ行えるようにしているが、新型コロナで制限をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が知人に出す年賀状の作成を職員が支援している。 ・通院の帰りに、馴染みの店で買い物をする利用者もいる。 ・家族に毎月「生活状況」を送付し、利用者への電話を取り次ぐなどの支援をしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席や声掛けする時など利用者同士が気のあうように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終末期で退居しても時折電話している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室担当が利用者様と関係を築き日常生活の中で本人の意向を気づけるように努めている。本人が言えないようなときは家族に聞いたりしている。	・利用者の思いは、気付いた職員が申し送りで、居室担当がすべて把握するようにしている。 ・「何かない？」と自ら仕事を探す利用者には、洗濯物たたみなどできることを任せている。家族の情報から、塗り絵を始めた利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を聞くようにしている。ホームの中での環境が合うように生活状況で報告、意見をもらうように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りの際に日誌やケース記録で情報共有し把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の資料を基に職員がそれぞれのアセスメントを行い、カンファレンスで評価しケアプランに反映している。	・介護計画は長期目標6か月、短期目標3か月として作成している。 ・モニタリングはカンファレンスにおいて参加職員が行っている。利用者や家族の意見はアセスメントで聴取し、それらの意見をもとに介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアプラン番号を記入することで毎月振り返り著しい変化があればプランを見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて支援はしているものの特に多機能化はしていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の状況を聞いたりして協力関係を築いている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までの病院にするか、ホームの訪問診療にするか聞いている。急変時にも対応できるように、ホームの協力医とは日ごろから関係を築いている。	・入居前からのかかりつけ医の継続は希望に応じている。通院は管理者が付き添っている。 ・24時間対応の医療協力があり、夜間の往診もある。協力医・歯科医・看護師の定期訪問診療時に情報共有して、支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携を取り現在週3回来ている。また、24時間対応もしており夜間でも何かあれば駆けつけてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを作成し入院時にその時の状況、普段の状況を伝えられるようにしている。入院時に退院の目安を医師に聞くようにして、退院後もホームに戻るよう努めている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明、同意をもらい、希望も聞いている看取りになったときに主治医、家族、ホーム職員、訪問看護、家族で集まり方向性を決めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化した場合や看取りについて入居時に説明し、家族や利用者の意向を確認している。 ・終末期となった時に、医師、家族、職員が集まり、改めて意向を聞き、連携して看取りを行っている。 ・終末期の研修を行っている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをいつでも見れるようにしている。事故等があり振り返りの際、マニュアルをあく確認している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を年2回している。夜間想定と地震対応、備蓄を常時備えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間と地震を想定した避難訓練を利用者全員参加で実施している。 ・運営推進会議と同日に訓練を行い、近隣の民生委員や自治会長が参加しやすいよう工夫している。 ・食料、飲料水、防災用品をリスト化して倉庫に備蓄している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	独自のマナー集を作り、各職員が申し送りの時などに確認している。言葉かけに対して優しくするように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は入職時と年1回の研修で、人格の尊重とプライバシー保護について学習し、日常の業務の中でも確認し合っている。 ・言葉かけなどで不適切な対応があれば、管理者が指導し、ベテラン職員も注意を促している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化してきている中で希望を表せるようくみ取るように努めている。そのペースに合わせて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れに沿って生活しているがご本人の希望があるときは、そのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容に来ていただいたり、洋服選びに職員とともにいたりしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お米研屋食器拭き等して一緒に行うようにしている。時々行事食や季節に合わせておやつを提供している。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で外食は休止だが、行事食や季節のおやつ、誕生日ケーキ、全員で作るカレーで食事を楽しめるようにしている。コーラなど嗜好品の希望にもできるだけ応じている。 ・利用者は米研ぎ、食器洗いなどを手伝っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取状況や飲水状況は毎日記録している。食事形態等も個々に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを言葉かけして必要に応じて介助している。口腔状態等訪問歯科と情報を共有している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握しトイレにて排泄できるように支援している。入居時はリハビリパンツだったが綿パンツになったご利用者様もいる。	・排泄チェック表や挙動を見て、トイレへ誘導して、排泄の自立支援を行っている。その結果、布パンツに改善した利用者がある。 ・職員が大声で排泄の有無を言わないよう注意し、おむつ交換もプライバシーが保てるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日食前に体操を行い、運動をするように努めている。必要に応じて排便コントロールしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望しての入浴者がいない為、こちらでタイミングをみて入浴していただいている。拒否する方は時間を置くか別の日にしたりしている。	・入浴は利用者の健康状態などの様子をみながら行っている。利用者は職員と昔話をするなど、ゆったり過ごせる時間になっている。 ・入浴を面倒という利用者には、日時を変更したり、声掛けを工夫して浴室に誘導している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくリビングにいて活動を促している。寝れない時などは傾聴するように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後の薬担当が、他の職員に確認をとりながら誤薬防止に努めている。内容を個々のファイルに入れ、いつでも確認できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きなことやお手伝いを見出し、それぞれにお願いしている。壁紙づくりなどの手作業も行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化しているため、30分程度の散歩ではなく、花壇の花や畑を観ながら楽しみを増やしている。地域のイベントがあれば見学などに行くよう努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で外出や外泊の機会が減っているが、利用者は通院中に売店で買い物したり、近所の公園まで花見に行ったりしている。 ・利用者は外気浴を兼ねて、花壇の花や畑の野菜を見て楽しみ、トマトやメロンの収穫を手伝っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染が落ち着いたら、車での外出などレクの実施が望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の時はできるだけお金に触ってもらうようにするが、今はできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えるようにしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃をして、換気、室温調整をしている。手作りの壁髪飾りで季節感を感じられるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・季節が感じられるように、毎月テーマを決めて皆で折紙や塗り絵の壁飾りを作成している。 ・換気、室温調整は職員が行い、加湿器付き空気清浄機を使用している。共用部の色彩や照明に配慮し、寛げるようにしている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席を決め、気の合うような利用者様同士が居られるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前になじみのものを持ってきて頂いている。仏壇、テレビを持ってきたりと自宅のような部屋にしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはエアコン、ベッド、クローゼットを設置している。利用者はなじみの家具や仏壇、テレビを持ち込んでいる。 ・清掃、整頓は職員が行っている。衣替えは家族が手伝い、写真や好みの手芸品を飾っている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況を把握して、それぞれのできないことを補えるように自立支援をしている。福祉用具の活用で安全を確保している。		

事業所名	シニアウイルおどりは戸塚
ユニット名	さくらの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は利用者様の尊厳、なじみの関係ある落ち着いた生活、地域活動、医療機関との連携を掲示しており、職員は共有し、一人ひとりの状況に合わせたケアを行っている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、行事があるときは参加するようにしているが自治会自体が行事をしていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェ（認知症カフェ）を毎月開催していたが、新型コロナで中止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事や実績についての報告や取組みを行っている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区のグループホーム連絡会に加入している。利用者の担当ケースワーカーと電話や訪問時に情報交換している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行わない、施設内研修において確認している。身体拘束委員会は3か月に1回行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回アンケートを取り、カンファレンスを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に行っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には内容の説明を十分に行っている。ご家族の疑問や要望についてはきちんと対応している		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月送付している事業所の生活状況表に、ご家族からの意見、要望欄があり、ご意見があった場合は、速やかに対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	時間を特別に設けていないが常に意見を出せる体制である		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金も含め、勤務状況を考慮している、年1回管理者と面談を行い、昇給、賞与に反映している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就労年月に応じて、内外の研修を照会している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市高齢者グループホーム連絡会に加入している。連絡会の研修にも参加できるようにしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時に家族やご本人と面談し、要望をお聞きしている。入所時は不安が大きいため、職員が積極的に関わることにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に家族やご本人と面談し、要望をお聞きしている。面会や外泊に制限を設けておらず、ご家族の関係を継続して頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時、ご家族より基本情報を記入して頂き、入居前の生活ぶりを把握し、問題解決に役立っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と個別に接する時間をたくさん設け、共に暮らしていく関係に努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月生活状況報告を送り、感想を記入して送り返していただいている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの申し出がない限り、ご家族以外の面会もして頂いているが、新型コロナの影響で制限している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や行動を理解し、対立や不穏な状態を回避出来る様、席次や作業グループなどを組み立てている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は関わるケースは少ないが、他の施設などに移られたときは家族の了承を得て面会させていただくこともある		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意思・希望に合わせ、それに沿えるようなプランを作るようにしている。困難な場合は希望を導き出せるように行動や言動より考えている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活ぶりを把握して、本人や家族の要望を沿えるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムが保てるように個別に支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式に基づき、職員で個々にアセスメントを行い、それに合わせたケアにケアプランを作っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会社独自の様式を使用し、個別に1日の様子がだれが見ても的確にわかるよう、その人の行動、言動、感情が読み取れるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わる利用者様に対して、その都度、すぐ対応できるよう職員間で共有、話し合いをして合ったサービスができるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などの情報を把握し、利用者様がいった行事に参加して頂いている		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向を基に職員が同行し状態を伝え適切な医療を受けられる支援をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化を見落とさないように気を配り、変化があった時は訪問看護と相談し健康管理を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中できるだけ面会に行き状態の把握できるようにして、早期に退院して頂けるようにしている。また、退院の際には主治医への情報提供をお願いしている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の考えを伝え、心身の変化が見られた際は、主治医、本人、家族、職員で都度適切な選択ができるように、家族の意向を確認しながら支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回消防への通報訓練や急変時の対応について訓練や研修を行っている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のための最低限の水や食料を確保したり、地域の防災訓練にも参加している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の生活歴、個性を理解し、その方の尊重を保てるような対応をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択しやすい問いかけを心掛け、利用者様が自己決定しやすい支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの1日の流れは設定しているが、利用者様の希望をなるべく優先している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好み、意思を尊重している		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり利用者様の能力を生かし、食事の準備や片づけをして頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のメニューの管理のもと、食事量、水分量の確認をしている。また、個別に状況により大きさや硬さの調節をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアの声掛けをして支援している。希望者には訪問歯科のクリーニングもしている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれのタイミングで声掛け、誘導をして、オムツなどの使用を減らすように努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らずに、乳酸菌飲料などの飲用を勧めたり、水分摂取などを声掛けしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	それぞれのタイミングに合わせることは難しいが、清潔に保つように努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの状態に合わせ、穏やかに、健やかに過ごしていただけるよう見守り支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同士の連絡を密にして状況を把握している。疑問点は、医師、薬剤師に確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の生活、性格などを理解するように努め、生き生きと過ごせるように支援している		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の花壇や畑などの外気浴、買い物に、参加できるように努めている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通院の帰りに買い物したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人等からの電話は必ず取次、聞き取りにくそうな場合は仲介している。手紙はご本人に渡し、ご家族が来られた時に知らせている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔と明るさに心掛け、季節の花を飾ったり、掲示したりしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は広く、新型コロナの影響で居場所づくりにできるだけ快適に過ごせるように努めている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は本人の使い慣れた家具や好みのものを持参して頂き安心して生活できるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は広く、段差もなく見守りしやすくなっている、できるだけ自立した生活が維持できるようにしている		

目 標 達 成 計 画

事業所名 シニアウイルおどりば戸塚

作成日 令和4年11月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ過で地域とのかかわりができていない	地域（自治会）とのかかわりを認知症カフェを再開することで地域とつながる	コロナが落ち着いたら、または春先に駐車場を利用して認知症カフェを再開する	1年
2	49	コロナ過で車での外出等外出レクが出来ていない	外出レクを行う	コロナ過でも一人ひとりで外出レクができるように家族も含め検討する	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。